

# 大学生地域の力に

## 豊島区、拠点スタッフ登用

豊島区は4月から、小学校区ごとに設備を進める地域活動拠点「区民ひろば」の活動に若い力を取り込むため、大学生を積極的に運営スタッフとして起用して



手づくりの紙芝居で地域の歴史を子どもたちに伝える語り部グループ豊島区立千早小学校

いく。区内の大正大と連携し、企画立案や講師を学生にも任せる計画だ。

区民ひろばは、年齢や利用目的に制限があつた児童館などの施設を再編し、高齢者の憩いや健康増進のため、「いきいきひろば」、乳幼児の遊び場の「子育てひろば」、生涯学習の「学習ひろば」など、五つの機能を持つ地域住民の活動拠点との位階つけた。現在24カ所あり、各ひろばが独自の企画を実施している。

区によると、毎年の区民ひろばの事業数は約1万3千件。延べ約78万人が利用している。ただ、18歳以上65歳未満の利用は全体の25%にとどまり、高齢者の利用に偏っているのが、課題の一つだった。

区が目をつけたのが、区内の大学。今回、大正大と連携し、単位を取れるインターンシップとして学生に参加してもらい、若い世代に興味を持ってもらえる企画を打ち出していく計画だ。

また、学び直しを目的に50歳以上を対象にした立教セカンドステーション大とも連携。卒業生を講師に招いて「シニア変身講座」を開いて、「地域デビュー」を果たしてもらおうねらいもある。

区民ひろばの新しい手法、カ所は地域住民が主体のNPO法人、18カ所は住民と区による運営協議会になっている。将来的にはすべてをNPO法人に担ってもらう予定だ。

区地域区民ひろば課の藤田力穂長は「大学生を登用することで、より若い世代の力を生かして欲しい、街の活性化につなげたい」と話す。

(佐藤 隆一)